

平成27年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名 生物産業学部
 学部長・委員長等氏名 黒瀧 秀久
 担当所管 オホーツクキャンパス事務部
 テーマ 入学から卒業、就職まで一貫した取組み

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>○大学と地域の共生による「地域創生（共創・共育・共感）システムの構築」 -入学から卒業、就職まで一貫した取組み-</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入試制度改革（キャンパスの特徴を活かした意欲ある学生の確保とその育成） 2. 地域と一体化したフィールド（体験型）を活用した育成環境・指導体制の整備 3. 産官学金連携強化 4. 戦略的広報の推進（魅力あるキャンパスを幅広く情報発信）
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 入試制度改革の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①榎本武揚フロンティア入試の実施（効果的な広報と教職員一体となった選考） ②一般Ⅱ期入試の見直し検討（平成29年度実施に向けた準備） 2-1. フレッシュマンセミナーと共通演習が連動した体験型プログラムの実施 <ol style="list-style-type: none"> ①指導体制の強化と評価システムの試行的運用 ②オホーツク体育祭、オホーツク網走マラソン、オホーツク収穫祭への参画 2-2. 「生物産業学のフロンティア（新テキスト）」を活用した生物産業学概論の実施 3. 産官学金連携強化 オホーツク総合振興局と生物産業学部が核となる地方創生推進体制の整備 4. 戦略的広報の推進 <ol style="list-style-type: none"> ①サテライトキャンパスをベースとした新規行事企画、各種行事へ積極的な参画 ②新学部パンフ、生物産業学のフロンティアを活用した新規行事企画・実施
3. 達成度を判断するための指標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①受験者100名以上の確保と目的意識の高い合格者20名の確保 ②受身から目的意識の高い学生確保の新制度の確定 2-1. 評価者の育成と評価システム（社会人基礎力講座の試験的運用） 2-2. 学生による授業評価とピアレビューの実施 3. 総合振興局、網走市を中心とした中長期事業計画協議会の立ち上げ 4. ①銀座サテライトの活用②新規サテライト開設に向けた準備 ③利害関係者に対する間接広報行事の企画実施 （戦略室・校友会・教育後援会・課外活動強化指定部）
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ①最終的に83名がエントリーシート提出、試験内容にプレゼンテーションを取り入れたことで目的意識の高い学生を20名確保することができた。 ②次年度入試に向けて、チャレンジ型入試として能動的面接を試験内容に盛り込む概要が

固まった。

2-1①社会人基礎力ファシリテーター研修を実施 50 名が受講、社会人基礎力診断テストを実施した。

②オホーツク網走マラソン、オホーツク収穫祭へ 1 年生全員が参加、各学科教員による振り返り面談を実施した。

2-2 生物産業学概論の担当を見直しし、新テキストを活用し授業を実施した。

3. オホーツク総合振興局と網走市の連携により、管内すべての市町との連携協定締結に向けて着手。管内金融機関及び JA との連携協定を締結した。

4. ①銀座サテライトキャンパスを開設、年間 14 回の社会人向け講座を実施

②丸の内地区における地域連携協定締結によりサテライト開設に向けた基盤が整った

③戦略室と連携した銀座サテライトキャンパスの広報実施、入学式・教育後援会懇談会・総会・地方懇談会等を利用した生物産業学概論の模擬講義を実施、校友会と連携した榎本武揚にかかるとの講演会を実施、

■評価（5～1 で記載してください）

1. 評価 4（試験内容の見直しで質の高い試験が実施でき、予定した 20 名の優秀な学生を確保することができた。

2-1 評価 3（学内講習会を開催、基礎力診断テストを実施、振り返り面接実施、基礎力診断にかかるとの外部研修及びイベントに参加することができた）

2-2 評価 3

3. 評価 3（協議会の立ち上げは網走市と調整段階だが、関係団体との基礎となる連携協定は締結できた）

4. 評価 3（予定通り銀座サテライトキャンパスを開設、オープニングセレモニーを盛大に開催、丸の内における拠点づくりも見通しが立った、しかし間接広報については、予算の関係もあり、限られた条件における広報にとどまった）

5. 課題及び改善事項

来年度世田谷キャンパスでの学部改組が実施される。さらに 30 年度は厚木キャンパスが改組を実施する。オホーツクキャンパスの特徴を前面に出した意欲のある学生を確保するためにも、入試制度改革（自己推薦型入試の充実とその認知度を固める広報戦略の確立）の実施が必須。

共通演習をベースとした、地域と一体となった体験型カリキュラムは平成 30 年度に向け整備が必須。

産官学金連携をさらに強化し、地方創生事業に主体となって取り組むことが必須。

6. 平成 28 年度への継続の有無

平成 30 年度に向けた学部改組と整合させ継続して実施

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名 生物産業学部学部長・委員長等氏名 黒瀧 秀久担当所管 オホーツクキャンパス事務部テーマ 平成30年度実施に向けた文理融合カリキュラムの検討

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部改組に向けた懇談会による検討 2. 共通演習プログラムのピュアレビュー 3. 産官学金連携による事業内容との連携
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部改組に向けた懇談会を中心とした改革案の作成と学科長会、FD委員会等の連携による最終案の確定 2. フレッシュマンセミナーと共通演習プログラムのピュアレビュー実施により情報を共有し、体験型プログラムの骨子を定める 3. 包括連携先とのフィールド連携具体的内容の協議 オホーツク総合振興局、網走市を中心とした中長期事業計画協議会による協議 フィールドセンター構想の具体化とその利用計画の協議
3. 達成度を判断するための指標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成27年度中の答申案作成と機関決定 2. フィールド体験型プログラムの骨子案を作成し学部改組答申案に盛り込む 3. 中長期事業計画協議会の開催と連携先との具体的事業の整理とりまとめ
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在WGを組織して改組案を作成中、3月末までに概要取りまとめ予定 2. 次年度に向けて、フレッシュマンセミナーと共通演習が1年間を通じて弾力的に運用できるよう連動させた。 学部改組に伴うカリキュラム改正にて学科横断的な体験型プログラムを協議中 3. 網走市とまち・ひと・しごと創生総合戦略において、フィールドセンター構想を盛り込み、管内全体との地方創生事業に着手した。 <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.2. 評価2（WGを設置し検討しているが当初予定より大幅に遅れている） 3. 評価2（次年度上半期には、斜網全地区における協議会設置を視野に入れた連携協定を締結予定）
5. 課題及び改善事項
平成30年度実施学部改組に向けた取り組みとして包括的な実施計画に変更する必要がある。

6. 平成 28 年度への継続の有無

平成 30 年度実施学部改組の取り組みとして 1.2.3 いずれも継続が必要

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成27年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 生物産業学部
 学部長・委員長等氏名 黒瀧 秀久
 担当所管 オホーツクキャンパス事務部
 テーマ ライフサービスの向上

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

地方自治体との連携による地方活性化の在り方とキャンパスの立地条件を踏まえ、ライフサービスの向上と地域活性化の拠点としてふさわしいキャンパスの整備

1. 食育を基本とした食環境の改善（食堂・売店）
2. キャンパス内の環境改善（くつろぎスペース、展示スペース、冬季対策）

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

1. 食堂及び売店のあり方について、他大学の取り組み状況、包括連携先をベースに民間企業の連携を視野に協議を開始。
2. 学生参画による体験型カリキュラムと連動した食堂。フードマイスター講座・オホーツクものづくり創成塾との連携、起業体験プログラムとの連携。
3. 学術情報課程・研究室活動・農友会活動と連携したキャンパスを整備。
（食堂・ラウンジ・回廊・ファイントレール・シンボルタワーの有効活用）

3. 達成度を判断するための指標

1. 視察状況、協議結果に基づく1次答申案の作成
2. 学生参画によるイベントの実施状況報告と学生アンケート
3. キャンパス行事開催時における来訪者に対するヒアリング及びアンケート

4. 成果・評価

■成果

- 1.2. 学部改組への準備、体験型プログラムの実施等が優先したため、協議を開始することができなかった。フードマイスター講座、創成塾、起業体験プログラムなどの取り組みは概ね予定通り活動できたが食堂と連携した取り組みまでは展開できなかった。次年度にむけて食育をテーマとしたプロジェクトをスタートさせた。教育後援会の支援を受けて、年次計画にて進める予定。
3. 食堂、ラウンジ、回廊における広報活動は積極的に展開できたが、イベント時アンケートを実施することができなかった。ラウンジに食堂の混雑状況、バスロータリーの発着状況など Web カメラによる中継を開始した。また、学術情報課程との連携は、準備期間短かったため調整できなかった。次年度に向けて3号館回廊にピクチャーレールを設置、次年度は展示エリアを拡大予定。

■評価（5～1で記載してください）

- 1.2. 評価2（準備不足、学部改組の取り組みとして本格的に始動する）
3. 評価2（多面的な連携が必要であったが計画性に欠けていた）

5. 課題及び改善事項

複数の新規事業を立ち上げたため、限られた資源（人員・時間）での実施となったことから、計画性に欠けていた。

次年度は体制を整備し、フィールドとキャンパスが連携した取組みとして体系的に進める。

評価の指標としてヒアリング及びアンケート実施を掲げたが次年度の計画にあっては見直しが必要である。

6. 平成 28 年度への継続の有無

1. 2. 3 ともに学部改革に合わせて包括的に継続させる

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。